

麻酔学

責任者・コーディネーター	麻酔学講座 鈴木 健二 教授		
担当講座・学科（分野）	麻酔学講座、医学教育学分野		
担当教員	鈴木 健二 教授、小林 隆史 講師、熊谷 基 講師、大畑 光彦 講師、相澤 純 特任講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 13コマ 19.5時間
期間	前期		実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

麻酔学は単に患者を手術侵襲から防御する知識を身につけるのみの学問ではない。患者の呼吸・循環・代謝管理等の全身管理について学び、これを全医学領域に応用できる力を養う領域である。

・教育成果（アウトカム）

- 1) 麻酔の意義および周術期管理について理解し、周術期の患者評価・患者管理法について説明できる。
- 2) 各種麻酔法を学ぶとともに各科の麻酔法について学び、それぞれの特殊性について説明できる。
- 3) 疼痛管理法の種類、神経ブロック手技について学び、それぞれの適応と合併症について説明できる。
- 4) 重症患者に対する人工呼吸管理を中心とした集中治療について学び、人工呼吸中の生理学的変化について説明できる。

（ディプロマ・ポリシー： 2、4、5 ）

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	全身麻酔の三要素について説明できる。
2	周術期に起こり得る合併症について説明できる。
3	各種麻酔法、それぞれの適応と禁忌について説明できる。
4	麻酔で用いる機器の使用目的、使用法について説明できる。
5	各科および特殊疾患の麻酔法について説明できる。
6	疼痛発生機序とその治療法について説明できる。
7	集中治療の適応について説明できる。

・講義場所

講義： 矢巾キャンパス西1-D講義室

・講義日程

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標 番号	コアカリ
講義	3/29(木)	1	麻酔学講座	鈴木 健二 教授	麻酔の意義 術前患者管理法	1、2	F-2-10)①、 F-2-10)②
講義	3/29(木)	2	麻酔学講座	鈴木 健二 教授	術中患者管理法	2	F-2-10)⑦、 F-2-10)⑧
講義	4/5(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	静脈麻酔	3	F-2-10)④
講義	4/5(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	吸入麻酔・麻酔器	3、4	F-2-10)④
講義	4/12(木)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	筋弛緩薬	3	F-2-10)③
講義	4/12(木)	2	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	救急患者の麻酔	5	A-3-1)⑥
講義	4/19(木)	1	麻酔学講座	小林 隆史 講師	心臓血管外科手術の麻酔	5	F-2-3)⑫、 D-5-4)-(2)⑥
講義	4/19(木)	2	麻酔学講座	小林 隆史 講師	小児麻酔	5	F-2-3)⑥、 D-8-1)①
講義	5/10(木)	1	麻酔学講座	熊谷 基 講師	産科麻酔	5	D-10-4)④、 D-10-5)②、 D-10-3)①
講義	5/10(木)	2	麻酔学講座	熊谷 基 講師	脳外科手術の麻酔	5	D-2-1)-(1)③、 D-2-4)-(1)①、 D-2-3)-(4)①
講義	5/17(木)	1	麻酔学講座	大畑 光彦 講師	局所麻酔	3	F-2-10)⑥
講義	5/17(木)	2	麻酔学講座	大畑 光彦 講師	ペインクリニック	6	A-3-1)⑦、 D-2-4)-(5)④、 D-4-4)-(1)⑭、 F-2-16)④
講義	5/21(月)	1	医学教育学分野	相澤 純 特任講師	集中治療	7	F-2-9)-(2)⑩、 D-6-1)④、 D-6-4)-(4)②

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
参考書	若い医師のための麻酔科学 3訂版	横山武志、飯島毅 著	ベクトル・コア	2014
参考書	透視下神経ブロック法	大瀬戸清茂 編	医学書院	2009
推薦図書	ICUブック 第4版	Paul L. Marino 著	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2015
推薦図書	標準麻酔科学第6版	古家仁、稲田英一、後藤隆久 編	医学書院	2011

・成績評価方法

総括評価：試験成績により評価する。
形成的評価：講義中に小テストや口頭試問、議論形式の評価を行い、学生にフィードバックする。授業参加態度についても評価する。

・特記事項・その他

総論：麻酔の意義、術前・術中患者管理、全身麻酔法（麻酔器・吸入麻酔薬・筋弛緩薬・静脈麻酔薬）、局所麻酔法
各論：心臓血管外科手術の麻酔、脳外科手術の麻酔、産科麻酔、小児麻酔、救急患者の麻酔、集中治療、ペインクリニック

シラバスに記載されている内容及び各回に配布・提示される教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。

授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。

授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン	3	講義用スライド作成、試験問題作成
講義	パソコン（Think pad）	1	講義
講義	ノートパソコン（MacBookPro）	1	講義用スライド作成
講義	硬膜外麻酔シミュレータ（MW3）	1	講義
講義	ノートパソコン（Surface Pro3）	1	講義